

# もくじ

(市で1年間に使う水の量)



市の人々が使う水の量のうつりかわり(会津若松市水道部資料による)

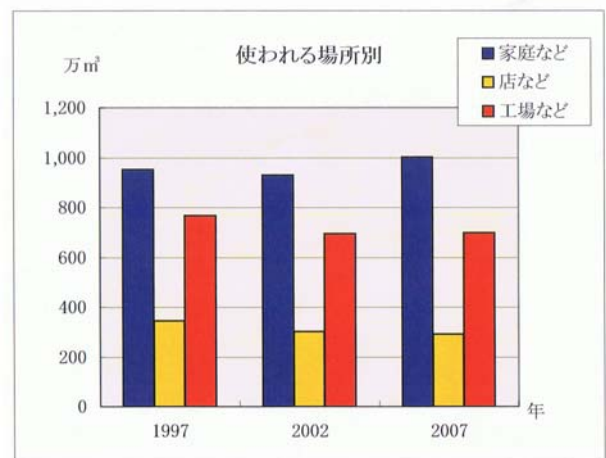
水の使用量が少しへってきたのは、なぜでしょうか。

## ⑥これからのくらしと水

先生が、市の水道の使用量の変化のグラフを見せてくださいました。みんなは、下の2つの資料<sup>しりょう</sup>を使って、水道の使用量がへってきたわけを話し合いました。そして、水をむだづかいしないように気をつける人がふえてきたことや多くの会社で水をあまり使わないように努力していることなどが、その理由としてあげられました。また、学校でもI S O<sup>アイエスオー</sup>運動に取り組んでいることも話題になりました。

※ 学校ばんISO(アイエスオー)運動・・・水や電気・紙などのむだづかいをへらし、かんきょうにやさしい学校づくりをすること

市の人口と水道を使う人口(市水道部資料より) 市で1年間に使われる水の量(同左)



おさむ君たちは、学習してきたことを生かしながら、「これからのくらしと水」について意見を出し合いました。



「水道を広げる工事が進むことももちろん大事だけれど、水を大切に使うことがもっと大事だと思います。」



「いつまでも、おいしい水がたくさんある会津若松市であってほしいと思います。」  
これからの私たちは、水をどのように利用していけばよいか話し合ってみましょう。



水道管をうめる工事のようす  
市の水道の歴史(市水道部資料による)

年	できごと
1924年(大正13年)	・市議会で水道をつくることを決めた。
1926年(大正15年)	・滝沢浄水場の工事始まる。
1929年(昭和4年)	・滝沢浄水場が完成し、初めて市内に水道の水が送られた。
1953年(昭和28年)	・給水人口が増えたので、滝沢浄水場のろか池をふやすための工事を始める。
1954年(昭和29年)	・旧東山浄水場が完成した。
1961年(昭和36年)	・給水人口の増加にともない水道を広げる工事を始める。
1966年(昭和41年)	・水道を広げる工事が完成した。
1970年(昭和45年)	・滝沢浄水場のちんでん池、ろか池などをふやすための工事を始める。
1972年(昭和47年)	・ちんでん池、ろか池をふやす工事が終わる。
1973年(昭和48年)	・東山ダムの水を使う東山浄水場の建設が始まる。
1983年(昭和58年)	・新しい東山浄水場ができあがる。
1985年(昭和60年)	・大川ダムの水を利用した新しい馬越浄水場の建設が始まる。
1990年(平成2年)	・新しい馬越浄水場ができあがる。
2000年(平成12年)	・大戸浄水場ができあがる。